

★京葉食品コンビナート協議会 様 会員企業数：32社
利用コース～生産性向上支援訓練「事故をなくす安全衛生活動」
(令和元年9月18日(水))

1. 訓練を利用した経緯・動機をお聞かせください。

当協議会は30社以上の食品製造業者からなる食品工業団地の自治会として40年以上の歴史を有し、労働安全衛生や防災等に対する会員各社の意識は高く、これまでも事務局では各種研修会等を企画・実施してきましたが、「高度かつ多様な会員のニーズに十分応え切れていないのでは」という悩みがありました。

そこにポリテクセンター千葉より生産性向上支援訓練の案内を受け、その豊富なメニューに感心した事が、訓練を利用しようと考えたきっかけになりました。食品製造の現場では、この数年来、「フードディフェンス」が重要な課題となっています。高度設備の導入等色々なアプローチが考えられますが、全ての活動の基盤となるのは職場の地道な安全衛生活動である事は明らかです。

当協議会としては、各社の安全衛生活動の高度化に向けた人材育成を支援したいと考え、今回の訓練を実施することとしました。

2. 訓練を利用した感想は？

訓練カリキュラムについては、「食品製造業」ということで、食品業界特有の問題に言及頂きました。また、ベテラン社員も多数参加することから、入門的な内容に留まることなく、講師の経験を十二分に活かしたリアリティ溢れる訓練となるようお願いし、実施して頂きました。

その結果、幅広い企業から予想以上に多数の参加がありました。1社で3～4名参加した企業も数社あり、関心の高さが伺えました。訓練の感想も概ね良好で、この訓練で学んだリスク分析の手法を、職場で実際に行って見た、といったお話も複数の企業から聞こえてきました。今回は労働安全衛生の分野の訓練を実施しましたが、当協議会では「防災」も喫緊の課題と認識しています。今後は「防災」や「BCP」に関する訓練も実施できればと考えています。



製造部次長 大沼利幸 様



京葉食品コンビナート協議会 外観

★ 日新化工株式会社 様 (受講企業)

3. 訓練を利用した事業主様等の声...

安全管理については、これまで社内の安全衛生委員会のメンバー(安全管理者)として活動し、取り組んできましたが、京葉食品コンビナート内で本テーマの生産性訓練が開催されることを知り、当社で取り組んでいる活動以外にどのようなものがあるのか、その内容や取り組み方などを学びたいと思い受講しました。

4. 訓練を利用した受講者様の声...

以前より、「ヒヤリ・ハット」については、その考え方(ハインリッヒの法則等も含めて)や、活動の意義は理解していましたが、実際にその内容が見えていませんでした。

今回の訓練受講後、早速従業員全員に対して「ヒヤリ・ハット」事例を抽出させたところ、約160(従業員数とほぼ同数)の事例を集めることができました。抽出された事例の情報を共有し、優先順位付けして改善取り組みを実施しています。今回の取り組みで現場から「ヒヤリ・ハット」事例を抽出させる良い機会を作ることができたため、今後も継続して取り組み、ゼロ災害を目指したいと思っています。